

I.K 先生より

英語を幾つかの地区の小学校で指導しているとき担任の先生が一人の特別支援児に時間をとられて他の児童が置き去りにになっている光景を何度か目撃しました。児童のニーズ(要求する問題点)は個々によって異なるのでその判別と対応は大変です。共同研究していた江戸川区の支援学級ではすべての児童が生き生きと積極的に英語活動に参加している光景も見て感銘を受けました。英語を音楽のようなリズムカルな言語として認識していることを直感しました。担任の先生によると国語は苦手でも英語は皆楽しんでいるとのことでした。現場の先生、教員になりたい学生、大学院生は児童のニーズをよく把握して、柔軟に、楽しく指導する心構えがもっとも必要であると考えています。